



しあわせ信州

平成29年度実績年次報告

第2期

長野県食と農業農村振興計画レポート

～夢をかなえ人を結ぶ信州の農業・農村～

平成30年9月

長野県

《 目 次 》

レポートの総括	1
第1章 平成29年度の特徴的な動き	9
第2章 本県の食と農業・農村の動向	25
・平成29年産農業農村総生産額	
・農産物主要品目の平成29年産生産実績	
第3章 施策の展開別実施状況及び今後の展開方向	
基本方向1 夢に挑戦する農業	
(1) 施策展開1 夢ある農業を实践する経営体の育成	37
ア 高い技術と経営力を持つ企業的農業経営体の育成	
イ 地域農業を支える活力ある組織経営体の育成	
ウ 新規就農者の育成	
エ 企業の農業参入等の促進	
(2) 施策展開2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産	47
ア 消費者や流通の変化を的確に捉えた農畜産物の生産振興	
イ 自然の力を活かした環境農業の推進	
ウ 農畜産物の安全性確保	
エ 信州農畜産物の生産を支える農地・水、技術	
(3) 施策展開3 信州ブランドの確立とマーケットの創出	78
ア 信州農畜産物のブランドの確立	
イ マーケット需要の把握による戦略的な生産・販路拡大と輸出促進	
ウ 6次産業化の推進	
基本方向2 皆が暮らしたい農村	
(1) 施策展開4 農村コミュニティの維持・構築	87
ア 中山間地域等における農村コミュニティの維持・強化	
イ 都市近郊地域等における農村コミュニティの強化	
(2) 施策展開5 地産地消と食に対する理解・活動の促	92
ア 地産地消の推進による信州農畜産物への共感	
イ 食育の推進による豊かな人間形成と健康長寿	
(3) 施策展開6 美しい農村の維持・活用	98
ア 農山村の多面的機能の維持と環境保全	
イ 農村資源の利活用の推進	
ウ 安全で快適な農村環境の確保と防災・減災	
第4章 重点プロジェクトの取組実績	
(1) 農業で夢をかなえるプロジェクト	106
(2) 環境にやさしい農業推進プロジェクト	108
(3) 新たな産地を築く園芸・畜産振興プロジェクト	110
(4) 「おいしい信州ふーど（風土）」認知度向上プロジェクト	113
(5) ふるさと農村元気プロジェクト	115
(6) 小水力発電導入促進プロジェクト	117
第5章 地域別の取組状況	
(1) 佐久 地域の取組	120
(2) 上田 地域の取組	127
(3) 諏訪 地域の取組	131
(4) 上伊那 地域の取組	136
(5) 南信州 地域の取組	142
(6) 木曾 地域の取組	146
(7) 松本 地域の取組	150
(8) 北アルプス地域の取組	154
(9) 長野 地域の取組	160
(10) 北信 地域の取組	165
5年間の総括	171
参考資料	
・平成29年度長野県農政のあゆみ、主な農業関係表彰事業受賞者一覧	181

レポートの総括

第2期長野県食と農業農村振興計画（以下「振興計画」という。）レポートは、「長野県食と農業農村振興の県民条例」第8条に規定された、県が講じた食と農業・農村の振興に関する施策の実施状況の長野県議会への報告及び概要公表となるものであるとともに、食と農業・農村の振興に関して県が講じた施策の状況や背景、今後の対応について、広く県民の皆さんにわかりやすく情報提供することを目的に作成した年次報告書です。

その概要は以下のとおりです。

1 食と農業・農村の経済努力目標の進捗状況

■ 農業農村総生産額

平成29年産の農業農村総生産額(推計)は3,083億円となり、前年と比べて34億円の減少(対前年比98.9%)となりましたが、29年度の目標である3,050億円を超える結果となりました。

これは、米は需給バランスが安定し価格が平成28年産を上回ったこと、果樹はオリジナル品種等への改植により単価が上昇傾向となったことに加え、農産加工品などの農業関連産出額の増加により生産額は増加したものの、主力である野菜の価格が堅調だった平成28年に比べ大幅に低く推移したことなどによるものです。

➤ 農産物産出額

平成29年産の農産物産出額(推計)は2,841億円となり、前年に比べて60億円の減少(対前年比97.9%)となりましたが、平成29年の目標である2,800億円を上回る結果となりました。

これは、主力であるレタス、ハクサイ等の葉野菜が豊作基調となり、価格が前年に比べ大幅に低かったことなどによるものです。

➤ 農業関連産出額

平成29年産の農業関連産出額(推計)は242億円となり、前年に比べて26億円の増加(対前年比112.0%)となりました。

これは、農家レストラン等の利用者が増加したこと、6次産業化に取り組む農業者が徐々に事業実績を上げ始めたことから、農産加工、観光農業が増加したことなどによるものです。

長野県の農業農村総生産額（長野県推計）

区分	22年 (基準年)	28年	29年	前年対比 29年/28年	29年 (目標年)	目標対比
農業農村総生産額	億円 2,908	億円 3,117	億円 3,083	% 98.9	億円 3,050	% 101.1
農産物産出額	2,738	2,901	2,841	97.9	2,800	101.5
農業関連産出額	170	216	242	112.0	250	96.8

2 達成指標の進捗状況

進捗管理を行っている30指標32項目のうち、11項目で第2期計画の最終目標（平成29年度）を達成しました。達成率8割以上を合わせると25項目でした。

【振興計画目標を達成した11項目】

■ 経営を法人化した経営体の数

■ 集落営農組織数

■ 信州サーモン生産量

■ 信州プレミアム牛肉の認定頭数

■ 遊休農地の再生・活用面積

■ 県が主催する商談会における農業者等と食品産業等との成約件数

■ 農産物の輸出額

■ 六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数

■ 都市農村交流人口

■ 食育ボランティア数

■ 農業用水を活用した小水力発電の容量

達成指標別進捗状況一覧

達成指標は30指標32項目

H29年度目標値 に対する達成率	100%以上	80%以上 100%未満	50%以上 80%未満	50%未満
指標項目数 【割合】	11 【34%】	14 【44%】	6 【19%】	1 【3%】

[平成29年度目標を達成した指標項目数11項目]

施策の展開	No.	項 目	平成22年 (基準年)	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	達成率 (H29実績値 /H29目標値)
① 夢ある農業を実践する 経営体の育成	1	経営を法人化した経営体の数 法人	計画値	810	840	906	900	112%
			実績値	758	876	918	1,005	
	2	企業の農業経営体等の数 経営体	計画値	8,400	8,600	8,800	9,000	96%
			実績値	7,939	7,991	8,267	8,678	
	3	担い手への農地利用集積率 %	計画値	44	46	50	53	79%
実績値			39	41	41	42		
4	集落営農組織数 組織	計画値	228	240	260	250	130%	
		実績値	212	249	281	326		
5	40歳未満の新規就農者数 (単年度) 人	計画値	250	250	250	250	84%	
		実績値	190	253	244	211		
② 自信と誇りを持てる信 州農畜産物の生産	6	環境にやさしい米づくりの面積 ha	計画値	1,551	1,680	1,771	1,887	75%
			実績値	1,226	1,322	1,420	1,561	
	7	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積(米) ha	計画値	320	900	1,100	1,260	85%
			実績値	0	588	913	1,068	
	7	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積(麦・大豆・そば) ha	計画値	696	780	900	950	98%
			実績値	311	761	877	933	
	8	果樹オリジナル主要品種等の栽培面積 ha	計画値	1,840	2,000	2,160	2,320	85%
			実績値	1,190	1,639	1,763	1,860	
	9	りんご新しい化栽培面積 ha	計画値	280	350	420	500	63%
			実績値	0	209	227	257	
	10	販売額20億円以上の野菜品目数 品	計画値	11	11	12	13	85%
			実績値	11	11	11	11	
	11	生産量全国1位の花き品目数 品	計画値	6	7	7	8	88%
			実績値	6	7	7	7	
	12	生産量全国1位のきのこ品目数 品	計画値	4	4	4	4	75%
			実績値	4	4	3	3	
	13	信州サーモン生産量 t	計画値	330	345	360	375	105%
			実績値	220	330	345	395	
	14	三倍体の大型イワナ生産量 t	計画値	0	0	20	30	20%
実績値			0	0	1	6		
15	信州プレミアム牛肉の認定頭数 頭	計画値	2,950	3,600	3,650	3,700	102%	
		実績値	844	3,152	3,242	3,477		
16	エコファーマーの認定組織数 組織	計画値	200	230	270	310	85%	
		実績値	126	179	213	263		
17	信州の環境にやさしい農産物認証面積 ha	計画値	1,780	1,900	2,040	2,200	82%	
		実績値	1,483	1,627	1,763	1,926		
18	生産者GAPに取り組むJA生産部会・農産物直売所の割合 %	計画値	23	28	34	39	62%	
		実績値	13	19	20	24		
19	農業用水の安定供給及び排水機能が確保される農地面積(H25～H29) ha	計画値	3,000	15,000	18,500	20,000	95%	
		実績値	—	12,561	14,920	18,950		
20	遊休農地の再生・活用面積(単年度) ha	計画値	600	600	600	600	116%	
		実績値	393	646	519	698		

施策の展開	No.	項目		平成22年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	達成率 (H29実績値 /H29目標値)
				(基準年)					
③ 信州ブランドの確立と マーケットの創出	21	「おいしい信州ふーど(風土)」の認知度(県内)	%	計画値	60	65	70	75	90%
				実績値	24	52	66	54	
	「おいしい信州ふーど(風土)」の認知度(県外)	%	計画値	10	15	20	25	67%	
			実績値	—	16	18	14		16.8
	22	県が主催する商談会における農業者等と食品産業等との成約件数	件	計画値	100	150	200	250	101%
実績値	—	108	158	208	252				
23	農産物等の輸出額	千円	計画値	123,000	200,000	315,000	500,000	207%	
実績値	—	206,000	386,172	563,656	1,036,000				
24	六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	件	計画値	90	94	94	94	101%	
実績値	—	91	91	93	95				
④ 農村コミュニティの維持・構築	25	都市農村交流人口	人	計画値	578,000	580,000	590,000	600,000	104%
実績値	546,544	599,351	604,427	624,909	622,241				
⑤ 地産地消と食に対する理解・活動の促進	26	農産物直売所数	店	計画値	830	830	835	840	92%
	実績値	814	822	788	805	773			
27	食育ボランティア数	人	計画値	18,500	19,000	19,500	20,000	106%	
			実績値	15,770	18,111	18,370	18,435		21,254
⑥ 美しい農村の維持・活用	28	地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	ha	計画値	25,537	39,650	44,650	50,000	91%
				実績値	22,484	33,786	38,391	40,827	
	29	農業用水を活用した小水力発電の容量	kW	計画値	1,900	2,000	2,100	2,200	132%
実績値	220	1,884	2,076	2,184	2,900				
30	農地等の安全確保面積(H25～H29)	ha	計画値	300	1,350	1,400	1,800	84%	
実績値	—	243	1,106	1,169	1,511				

基本方向	指標数	H29年度目標値に対する達成割合別指標項目数							
		100%以上	100～90	90～80	80～70	70～60	60～50	50%未満	
①	5	2	1	1	1	0	0	0	0
	割合	40%	20%	20%	20%	0%	0%	0%	0%
②	16	3	2	6	2	2	0	1	
	割合	19%	13%	38%	13%	13%	0%	6%	
③	5	3	0	1	0	1	0	0	
	割合	60%	0%	20%	0%	20%	0%	0%	
④	1	1	0	0	0	0	0	0	
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
⑤	2	1	1	0	0	0	0	0	
	割合	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	
⑥	3	1	1	1	0	0	0	0	
	割合	33%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	
計	32	11	5	9	3	3	0	1	
	割合	34%	16%	28%	9%	9%	0%	3%	

3 施策の展開別実施状況

夢に挑戦する農業

施策展開1：夢ある農業を実践する経営体の育成

- 企業的な経営感覚や経営管理能力を持った認定農業者を育成するため、長野県農業再生協議会と連携し、研修会を開催するとともに、農業経営コンサルタント等を派遣し、法人化や経営改善等の指導・助言を行いました。
- 担い手への農地の集積・集約化を促進するため、「農地中間管理事業の推進に向けた関係機関の連携に係る活動方針」を5者（長野県、JA長野中央会、農業会議、土地改良事業団体連合会、農地中間管理機構）で合意するとともに、その合意内容の周知や事業活用推進のため、「農業委員会と農地中間管理機構の連携によるキックオフ会議」の開催や市町村、JA等へのキャラバンを実施しました。
- 将来の担い手として期待する農業高校生の就農促進に向けた「農業高校生等就農促進連絡推進会議」を開催しました。

施策展開2：自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産

- 土地利用型作物については、人・農地プランに位置づけられた担い手への農地利用集積による規模拡大や、経営所得安定対策の活用推進により、将来にわたって地域の水田農業を担う効率的な経営体の育成を進めました。
- 水田農業複合モデルの提示、ICTの活用による効率的な生産体系のモデル実証やモデル法人へのトヨタ式カイゼン手法の導入を進める等、稲作における担い手経営体の低コスト化や園芸作物の導入等による、収益性向上の取組を支援しました。
- 果樹では、「ナガノパープル」、「シャインマスカット」の長期出荷体系の確立のための冷蔵施設の導入支援や、高級すもも「麗玉」の試験販売を大都市圏の百貨店等で行い、県オリジナル品種等による特色ある産地の再構築とブランド化を図りました。また、りんご高密度栽培・新わい化栽培の研修会を開催したほか、県内種苗業者などへのフェザー苗の生産供給体制への支援等により、収益性が高く省力的な栽培を推進しました。
- 野菜では、責任ある野菜供給産地として、夏はくさいの適正生産やアスパラガスの1年株養成苗供給、夏秋いちごの施設化の推進等により、マーケット需要に対応できる産地づくりを進めるとともに、ジュース用トマトの生産振興のため、集落営農組織への新規導入提案やモデル園における機械化一貫体系の実証を行いました。
- 花きでは、キク類の需要期の安定供給を図るため、赤色LEDを用いた開花調節技術の産地実証や、トルコギキョウの土壤病害に対する土壤還元消毒の効果検証等主力品目の各プロジェクト活動による生産拡大や作型安定への取り組みを行いました。
- きのことでは、産地に設置した支援班が巡回指導により経営改善を進めたほか、異物混入防止のための関係機関の意識統一を図りました。
- 水産では、種苗生産施設である水産試験場などの施設整備を行い、信州サーモン及び信州大王イワナの稚魚の安定供給を図るとともに、行政、漁協、観光関係者等が連携して「釣リズム信州推進事業」を実施しました。
- 畜産では、遺伝的に産肉能力の高い「スペシャル繁殖牛」の認定や活用により信州プレミアム牛肉の増産を図るとともに、発情発見装置や分娩監視装置などのICT実証モデル農場の設置や畜産クラスター事業の活用等により畜産経営基盤の強化と畜産農家の収益力向上を図りました。
- 環境農業では、農業者を対象とした研修会を開催し、事例発表などを通じて意識の向上を図ったほか、環境にやさしい農業技術集をとりまとめ県ホームページに掲載するなど情報提供を行い、技術の普及に努めました。
- 農畜産物の安全性の確保については、各種研修会により、GAP指導者及び農場HACCP指導員を養成しました。

- 農業生産基盤の整備については、区画整理や農道、畑地かんがい施設など、生産性向上のための整備を行うとともに、頭首工や用水路などの既存施設の長寿命化や大規模地震に備えた農道橋の耐震対策を進めました。
- 技術開発では、種なし栽培に適した皮ごと食べられる新しい赤色ぶどう品種「ブドウ長果11」などの県オリジナル品種の育成や、低コスト・省力化・高位安定生産技術や、環境にやさしい農業生産技術の開発、産学官連携による革新的な技術開発等を推進しました。

施策展開3：信州ブランドの確立とマーケットの創出

- 信州農畜産物のブランドの確立については、各地域振興協議会で作成した「おいしい信州ふーど（風土）」物語を活用した銀座NAGANOでのPR活動や、東海・北陸地域における信州農畜産物のファン層を拡大するため、愛知県、富山県、石川県等で「おいしい信州ふーど（風土）」をPRしました。
- 海外に向けた販路拡大では、輸出対象国での販路開拓を図るため、有望な輸入事業者を招へいた県内産地の視察などにより、商談を促進しました。
- 6次産業化では、民間の専門家を信州6次産業化プランナーとして登録し、6次産業化を目指す事業者への個別課題解決への支援を行いました。

皆が暮らしたい農村

施策展開4：農村コミュニティの維持・構築

- 中山間地域等におけるコミュニティの維持・強化では、中山間地域農業直接支払事業により、集落の共同活動を支援し、中山間地域における耕作放棄の発生防止や水路、農道の維持・管理等多面的機能の増進を図りました。
- 都会に住む若い女性を対象に、農業女子と交流するフォーラムや、農業女子を紹介したパンフレットの作成・配布等、長野県の農業・農村の魅力を発信しました。

施策展開5：地産地消と食に対する理解・活動の促進

- 「おいしい信州ふーど（風土）」を食べよう！育てよう！地産地消キャンペーンの活動が10周年を迎えたことに合わせて10周年記念パーティーを開催しました。
- 学校給食における県産農産物の利用拡大を図るため、県下の給食施設の学校栄養教諭や調理員を対象に意見交換会を開催し、地産地消や食育を推進しました。

施策展開6：美しい農村の維持・活用

- 地域ぐるみで行う共同活動の普及促進及び活動の質的向上を図るため、「長野県農業農村多面的機能発揮シンポジウム」を開催し、活動組織からの事例報告や、テーマ別の意見交換会を行い、活動を次世代につなげていく機運の向上を図りました。
- 野生鳥獣対策では、国の交付金を活用した防護柵設置や、野生鳥獣対策チームが市町村等と連携し、集落ぐるみでの被害対策の体制整備を進めました。
- 農業用水を活用した小水力発電では、導入を推進するため、市町村・土地改良区等の職員を対象とした研修会の開催や、小水力キャラバン隊による出張相談会等による普及啓発活動を行いました。

4 今後の展開方向

平成25年度に「第2期長野県食と農業農村振興計画」を策定し、基本目標である「夢をかなえ人を結ぶ信州の農業・農村」の実現を目指し、施策を展開してきました。

この間、人口減少社会の到来による農業者の減少と高齢化の進行、SNSやインターネットの普及による情報化の進展や消費者の価値観の多様化が進むとともに、米国を除くTPP11協定の署名や日EU・EPAの大枠合意（平成30年3月末時点）といった国際経済連携の進展など農業を取り巻く情勢が目まぐるしく変化しています。

このような状況に対応すべく「第3期長野県食と農業農村振興計画」では、農業者が減少する中で、次代の本県農業・農村を担う者に、農地や技術、郷土食、農村の文化や景観等を確実につなぐため、10年後のめざす姿の実現に向けた方向性を明示し、今後5年間において「産業としての農業」、「消費者が求める食」、「暮らしの場としての農村」の3つの視点から総合的かつ戦略的に施策を展開することとしています。

基本目標に「次代へつなぐ、笑顔あふれる信州の食と農業・農村」として掲げ、産業としての農業を振興する「次代へつなぐ信州農業」、消費者が求める食を推進する「消費者とつながる信州の食」、暮らしの場としての農村を創造する「人と人がつながる信州の農村」を大きな3つの基本方向の柱に、施策を推進してまいります。

基本方向1：次代へつなぐ信州農業 [産業としての農業]

施策展開1：次代を担う経営体の育成と人材の確保

本県農業の持続的な発展に向け、認定農業者など戦略を持って経営を展開する中核的経営体を育成し、これらの経営体が、農地中間管理事業の活用などにより農地の集積・集約を進めながら、経営の効率化、稼ぐ力の強化を図り、地域の農業生産の大宗を担う農業生産構造の構築をめざします。

全国的な人口減少社会の中、本県農業を担う人材を安定的に確保するため、新規卒業者や就職後に早期転職する親元就農者等の経営継承を進めるとともに、県内外からの新規参入者の誘致を促進します。

農業経営体を支える雇用就業者（従業員）を安定的に確保するため、雇用経営を行う又は志向する者に対し、雇用スキルの向上や雇用就業者の資質向上に向けた取組、労働力の確保・最適化に向けた取組を推進します。

集落営農組織や農業分野に参入した企業などの多様な農業経営体等が、兼業農家や自給的農家など地域を支える様々な方々と連携し、農地の有効利用を図りながら、地域農業を維持していく取組を促進します。

農作業中の事故防止に向け、関係機関・団体が連携して、高齢農家等の農作業安全意識向上に資する取組を推進します。

施策展開2：消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産

マーケットインと環境農業への取組を基本に、県内で育成されたオリジナル品種や本県の特性を活かした販売力の高い品目・品種の導入、新たな技術の導入等を進め、「稼ぐ力」を高めます。

県オリジナル品種の早期産地化や安定生産を図るため、長野県原種センターや種苗業者等と連携し、優良種子・種苗の安定供給に向けた取組を継続して進めます。

また、高収益作物の導入、加工・業務向けの契約栽培の推進等による農業所得の向上や農作業の外部的、ICTの活用等による労働生産性の向上を進めます。

更に、革新的な農業技術の開発・普及を進めるとともに、農畜産物の安全性の確保、品質の向上と安定した生産を支える農業生産基盤の保全管理・整備を進めます。

施策展開3：需要を創出するマーケティング

県内で生産されている農畜産物やその加工品について、それぞれが生産された信州の豊かな自然環境や歴史、文化などの背景と合わせ、県民が共感できるブランドとして県内外に発信するとともに、生産者団体や流通事業者等の関係機関と連携を図りながら、多様な実需者ニーズに的確に対応し、「最適なタイミングかつ最高の状態」で流通・供給できる体制を構築します。

また、6次化ビジネスに取り組む農業者を増加させることにより、所得向上と経営の安定、さらに雇用創出等による地域経済の活性化を図ります。

加えて、信州農畜産物の輸出を農業者の販売チャネルのひとつに位置付け、加工品を含めたオールNAGANOでの輸出拡大を図ります。

基本方向2：消費者とつながる信州の食 [消費者が求める食]

施策展開1：本物を味わう食と食し方の提供

信州農畜産物は、和食だけに留まらず様々な料理に利用され、また各地域の郷土料理や伝統食の食材として受け継がれている等、豊かな自然と風土に育まれた魅力ある背景や物語を有しています。信州農畜産物の地元での活用を進め、食文化や伝統を継承するとともに、多様な食生活に対応した「信州の食」を提供し、信州農畜産物の需要拡大を図ります。

また、県内で生産された農畜産物または郷土食として定着している料理・加工食品で一定の要件を満たすものを新たに「おいしい信州ふード」として設定し、県民運動として広く展開することで信州農畜産物の魅力発信と県民との意識の共有を図ります。

施策展開2：しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案

県民の心身の健康増進と豊かな人づくりに必要な「食」に対する理解を深め、その背景にある農業者や農業を取り巻く環境、さらには郷土食・伝統食といった地域の食文化を含めた「地域づくり」としての「食」の重要性が、子どもたちや地域住民の間で理解されるような取り組みを進めるとともに、長野県食育推進計画との整合を図りながら、食を通じた豊かさやしあわせを実感できるライフスタイルの実現をめざします。

基本方向3：人と人がつながる信州の農村 [暮らしの場としての農村]

施策展開1：持続的な農業生産活動を支える基盤づくり

農村の多面的機能を維持・発揮させるため、多面的機能支払事業や中山間地域農業直接支払事業等を活用し、農家のみならず地域住民や都市住民、企業等多様な主体の参画による共同活動を促進します。

農地と水を守り、農業水利施設を適切に保全管理する土地改良区などの人材育成と健全な組織運営を支援します。

農業水利施設の改修やほ場内農道の舗装等、農地の条件整備により持続的な営農を支えます。

大規模地震や豪雨等による被害を防止するため、ため池などの耐震化、排水機場のポンプ設備などの更新整備、地すべり防止施設の長寿命化等、農村の暮らしを守る環境を整備します。

野生鳥獣による農作物被害の低減に必要な対策を推進し、安心して農業ができる生産環境と地域の暮らしを守ります。

施策展開2：多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持

人が移り住み、多様な人材が支え合い共同活動が活発に行われている、そこに暮らす人にとって「魅力ある農村づくり」を進めます。

農業生産活動等を通じた地域のつながりの強化や都市住民との交流、地域に存在する多彩な地域資源を活用した地域活動や、女性農業者による農業・農村における活動を促進し、農村コミュニティの維持・強化を図り、祭りや伝統食等農村文化の伝承を進めます。

また、農村の豊かな自然環境を活かし、農福連携による障がい者などの就農、市民農園等における都市住民や高齢者の生き甲斐の場づくりなど、誰もが農業や自然にふれあうことができる機会づくりを進めます。

都市農村交流を推進することにより、農村の多面的機能保全が農村住民だけでなく都市住民にとっても重要であるという認識を深め、それを契機として新規に農業に参入するなど農村への移住を促進し、移住者を農村コミュニティに取り込むことで農村の活性化を図ります。

施策展開3：地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

疏水等の歴史や景観等の魅力を「学びの場」や「観光資源」として活用し、観光客等に農村の「こだわり」や農作物を育む環境を間近に見て感じてもらうことにより、農作物の付加価値向上や農村の多面的機能への理解醸成を図ります。

農業用水路を流れる水が包蔵しているエネルギーを貴重な地域資源として活用することで、エネルギーの持続性を高めるとともに、売電収益により農業用水路等の管理にかかる費用の負担軽減を図ります。

また、農業バイオマスなどの地域資源を有効活用するため、地域、民間事業者等によるバイオマスに関する取組を促進するとともに、関係機関と連携しながら、県内のバイオマス資源の総合的な利活用を推進します。